

第1学年国語科学習指導案

児童 男子6名 女子11名 計17名

指導者 山田 豪毅

- 1 単元名・教材名 おはなしのじんぶつのようにすをそうぞうしながらよもう
「かいがら」(東京書籍 1年上)

2 単元について

(1) 児童について

- ・7月単元「おおきななぐ」では、登場人物の行動を読み、話の展開を楽しみながら、登場人物がその時に言ったことを考えて吹き出しに書くことができた。
- ・全員絵本が好きで、図書コーナーから進んで絵本を借りるなど、興味深く読む児童が増えている。

(2) 教材について

- ・くまの子の行動を中心に書かれていて、話の展開を捉えやすい。また、くまの子とうさぎの子の会話は短いながらも、気持ちを豊かに表現していて児童の共感を呼ぶであろう。更に会話を想像したり、会話の続きを想像することが楽しんで取り組める教材である。
- ・挿絵は、どの場面にも表情豊かなくまの子とうさぎの子の様子が生き生きと描かれていて、登場人物の行動や気持ちを読み取ったり、想像を広げたりする助けとなる。

(3) 指導にあたって

<手立て1>単元全体や単位時間ごとの見通しをもたせる工夫

①学年の系統性と児童の実態をふまえた単元構想の作成

- ・本単元では、挿絵を基に場面の順序・物語の大体をおさえ、登場人物がどのような表情・口調・様子だったのかを中心に、その時の気持ちを想像させることで単元のねらいに迫りたいと考えた。森山京さんの作品をはじめ、いろいろなお話の中から登場人物に言ってあげたいことのある本を選び、その人物に「いつてあげたいかあど」をまとめるという言語活動を通して、人物の想像を広げながら読む力を高めたいと考えた。

②単元導入の工夫

- ・教師が自作した「いつてあげたいことかあど」を紹介し、単元のゴールまでの学習意欲の持続につなげる。
- ・いろいろなお話の本があることを知らせる中で、「森山京さんコーナー」を紹介し、お話を一つ読むごとにリストにシールを貼っていくことを説明し、読書への意欲を高める。

③学習計画作り

- ・第三次で取り組む「いつてあげたいことかあど」を書くための学習計画を教師とともに大まかに立てる。
- ・挿絵を基に場面分けをし、場面ごとに読み取っていくことを学習計画表に付け加え、計画を完成させる。

④単位時間の見通しをもたせる工夫

- ・学習計画表を提示して、本時の学習に見通しをもたせる。
- ・第二次の場面ごとに人物の行動を中心に気持ちを想像しながら読む学習では、導入時に挿絵を掲示して一斉に音読をさせて場面の確認をしたり、人物の行動や会話に着目させたりしながら、本時の

学習の見通しをもたせる。

- ・「かいがら」の読み取りにはワークシートを活用し、行動や会話から気持ちを想像できるように形式を工夫する。

⑤次の学習につなげる振り返りの工夫

- ・課題を確認した後、単位時間の進め方を確認したり、振り返りの視点を示したりして、一単位時間の学習意欲の持続につなげる。
- ・単位時間の振り返りを学習計画と一体化したシートに行わせ、次の導入時に紹介することで学習意欲を高める。

＜手立て2＞学校図書館などの利用目的を明確にし、その機能の活用を図る工夫

①単元の中で読書意欲を高める工夫

- ・単元の導入時に、いろいろなお話の本がたくさんあることやその中に著者の森山京さんの本もあることを知らせ、読書意欲を高める。
- ・本のタイトルをリストにして掲示し、読んだ本にシールを貼っていくことで読書意欲を継続させる。

②発達段階に応じた情報収集や選択・活用方法の指導の工夫

- ・図書コーナーの本の展示とともに、いろいろなお話の本や作者の森山京さんの本の紹介をする。

③魅力ある図書館運営の工夫

- ・図書コーナーに、いろいろなお話の本を展示し、「森山京さんコーナー」を設ける。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 目標 人物の行動や会話を中心に、場面の様子を想像しながら読むことができる。

(2) 単元の評価規準

【関】物語を楽しんで、想像を広げて読もうとしている。

【読】人物の行動を読み取り、その時の気持ちを想像している。C(1)ウ

【言】敬体で書かれている文章に読み慣れている。伝国(1)イ(キ)

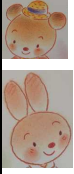



(3) 単元の系統性

	1年	2年	3年
単元名	じんぶつのきもちをそうぞう	そうぞうして読もう	物語のしかけをさがそう
教材名	してよもう 「かいがら」	「お手紙」	「ゆうすげ村の小さな旅館」
目標	人物の行動や会話を中心に、 場面の様子を想像しながら読 むことができる。	人物がしたことやその時の様 子に気をつけて物語を読むこ とができる。	物語で起きた出来事を読み取 り、物語のしかけを見つける ことができる。
おさえ たい主 な学習 用語	人物・場面 →	人物・場面	しかけ

4 指導計画（全8時間）

次	時	主な学習活動 ★図書館との関わり	評価規準とその方法
一	1	○「いつてあげたいこと かあど」を書くための学習計画を立てる。	【関】 登場人物の行動や場面の様子について想像を広げながら読もうとしている。 (発言)
	2 本時	★いろいろなお話を並行読書していくことを知る。	
二	3	○くまの子の様子を想像する。	【読】 場面の様子について、登場人物の行動を中心に、想像を広げて読んでいる。 (音読・ワークシート・発言) 【言】 敬体で書かれた文章に慣れている。 (音読・ワークシート)
	4		
	5	○くまの子とうさぎの子の様子を想像する。	
	6	○くまの子やうさぎの子に伝えたいことを想像する。	
三	7	○いろいろなお話の中から、心に残ったお話を選ぶ。	【読】 自分の選んだ本について登場人物の行動や会話に着目し想像を広げて読んでいる。 (発言・カード)
	8	○選んだお話の中から、お話の中の人物に伝えたいことを「いつてあげたいこと かあど」に書く。	

5 学習計画表

3		2				1	
8	7	6	5	4	3	2	1
「いってあげたいかあど」	じぶんでえらんだおはなし	「いってあげたいかあど」 	← 		ようすをそうぞう 	がくしゅうけいかく	よむ。
いろいろなほんをよむ							

かいがら
もりやま みやこ ぶん
しんの めぐみ え

○おべんきょうのなまえ
そうぞうしながらよもう

○みにつけていききたいちから
じんぶつのようにすをそうぞうしながらよむちから

○けいかく

6 本時の指導

(1) 目標

単元の学習の見通しをもち、「いってあげたいかあど」を作成するために、意欲的に学習計画を立てようとする。

(2) 評価基準

おおむね満足できる	努力を要する児童への手立て
人物の様子に興味を持ち、「いってあげたいかあど」を作成するために、意欲的に学習計画を立てようとしている。	「いってあげたいかあど」のモデルや並行読書で読む本を示し、意欲を高める。

(3) 展開

時	学習活動	指導上の留意点（・）評価（◎）
導 入	<p>1 前時を想起する。</p> <p>(1) 「いってあげたい かあど」を作成することを振り返る。</p> <p>2 課題を把握する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「いってあげたいかあど」をつくる、がくしゅうけいかくをたてよう。</p> </div>	<p>・おじいさんとおばあさんに書いた「いってあげたいかあど」を提示し、想起させる。</p>

8 分	7 次時の確認をする	<ul style="list-style-type: none"> ・くまの子とうさぎの子が、最初にしたことを考えることを確かめる。
--------	------------	--









(4) 板書計画

ふりかえり

これからのがくしゅうのしかたがわかりましたか。

「かいがら」のべんきょうでがんばりたいとおもったことをかきましよう。

◎ ○ △ ×

3	2			1	
「いってあげたいかあど」	じぶんであらんだ おはなし	「いってあげたいかあど」	←	ようすをそうぞう	がくしゅうけいかく
	  	 	 		
いろいろなほんをよむ。					

かいがら

かだい

「いってあげたいかあど」をつくる、がくしゅうけいかくをたてよう。

○おべんきょうのなまえ

そうぞうしながらよもう

○みにつけたいちから

じんぶつのようすをそうぞうしながらよむちから

○がくしゅうけいかく